

新入生へのメッセー

教官から・先輩から

チャンスは与えられた

あとは諸君の意欲次第だ

ここでは学生の自主性が尊重される

もちろん、それなりの責任は伴う

皆さんの周りには多くの誘惑もある

楽勝科目という甘い情報も飛び交う

でも「楽」に何の価値があるう

「苦」と同居しない「楽」はむなし

自分を大事にしよう

(「志を高く持とう」)

本号では、教官と先輩から新入生へのメッセーを送っていただいた。これらの意見を参考にして、各学部を卒業する時には、自分や自分の意思を確立してくれていることを期待する。

情報化社会への準備を

新入生のみなさん、広島大学へようこそ。大学図書館としても、フレッシュで学習意欲に燃えた諸君を大いに歓迎したい。

みなさんが大学を卒業するのはちょうど二十一世紀の幕開けであり、その意味で新世紀を背負って立つ立場にあり、その準備期間を大学で過ごすことになる。二十一世紀のキーワードの一つとして「高度情報化社会」ということが言われている。情報化というと、インターネットが代名詞のようにつかわれることが多いが、それに限ったことではない。現にみなさんに、入学と同時に渡される印刷物やオリエンター



附属図書館長 前田 文之

化社会に生きるための、大学における最初の訓練の場である。

高校までとちがって大学では、自分で主体的に物事に取り組んでいくことが期待されている。大学には、図書館だけでなく各学部、学科、研究室等にも、みなさんがそのつもりになれば利用できる情報源がたくさんある。何がどこにあるか知るために積極的に動き、いかに自分のために使えるか考えて、いろいろと工夫をしてみる努力をすることも、情報活用の術を学ぶのに大事なことであろう。大学内外の情報源を有効に利用して、充実した大学生活を送って欲しいと願っている。

ション行事で与えられる情報の量は、一昔に比べると数倍(?)になっており、これも情報化の一端である。これらの膨大な情報の中から自分に必要な物を選択し、これからの大学生活の設計図を一人ひとりが作ることになる。情報